

横浜市立みなと赤十字病院

# 救急科専門研修プログラム

## 1. 横浜市立みなと赤十字病院救急科専門研修プログラムについて

### ①本プログラムの特徴

本プログラムの最大の特徴はER型救急です。多くの症例を重症度に関わりなく受け入れていることで、あらゆる症例を経験し、診断治療を行うことができます。また集中治療部とのコラボレーションも特徴のひとつです。回診・カンファレンス・学会活動は協働で行っています。プログラムの中には最低6ヶ月の集中治療部での研修が組み入れられているためER診療だけではなく、全国的にも有名な集中治療部の診療技術も身に付けることができます。さらに赤十字病院の特徴として災害医療への取り組みにも積極的です。希望者にはDMAT研修、赤十字救護班研修などの機会が与えられ、災害発生時には優先的に派遣の機会が廻ってきます。

### ②専門研修の目標

- 1) 様々な傷病、緊急度の救急患者に、適切な初期診療を行える。
- 2) 複数患者の初期診療に同時に対応でき、優先度を判断できる。
- 3) 重症患者への集中治療が行える。
- 4) 他の診療科や医療職種と連携・協力し良好なコミュニケーションのもとで診療を進めることができる。
- 5) 必要に応じて病院前診療を行える。
- 6) 病院前救護のメディカルコントロールが行える。
- 7) 災害医療において指導的立場を発揮できる。
- 8) 救急診療に関する教育指導が行える。
- 9) 救急診療の科学的評価や検証が行える。
- 10) プロフェッショナリズムに基づき最新の標準的知識や技能を継続して修得し能力を維持できる。
- 11) 救急患者の受け入れや診療に際して倫理的配慮を行える。
- 12) 救急患者や救急診療に従事する医療者の安全を確保できる。

## 2. 救急科専門研修の方法

### ① 臨床現場での学習

経験豊富な指導医が中心となり救急科専門医や他領域の専門医とも協働して、専攻医のみなさんに広く臨床現場での学習を提供します。

- 1) 救急診療での実地修練 (on-the-job training)
- 2) 診療科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス
- 3) 抄読会・勉強会への参加
- 4) 臨床現場でのシミュレーションシステムを利用した、知識・技能の習得

## ② 臨床現場を離れた学習

国内外の標準的治療および先進的・研究的治療を学習するために、救急医学に関連する学術集会、セミナー、講演会および JATEC、JPTEC、ICLS、ISLS、DMAT (DMAT-L 含む)

講習会コースなどの off-the-job training course に積極的に参加していただきます。特に、当専門医病院群では年間 5-10 回程度の ICLS コースを開催しているため、どこかのコースに参加していただいて救命処置法の習得のみならず、優先的にインストラクターコースへ参加できるように配慮し、その指導法を学んでいただきます。また、JATEC コースを年に 1 回定期開催しているため、そのコースに参加していただきます。

研修施設もしくは日本救急医学会やその関連学会が開催する認定された法制・倫理・安全に関する講習にそれぞれ少なくとも 1 回は参加していただく機会を用意いたします。

## 3. 研修プログラムの実際

本プログラムでは、救急科領域研修カリキュラムに沿って、経験すべき疾患、病態、検査・診療手順、手術、手技を経験するため、基幹研修施設と複数の連携研修施設での研修を組み合わせています。基幹領域専門医として救急科専門医取得後には、サブスペシャリティ領域である集中治療医学領域専門研修プログラムに進んで、救急科関連領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動も選択が可能です。

①定員：6名/年。

②研修期間：3年間。

1) 横浜市立みなと赤十字病院救急科（基幹研修施設）

(1)救急科領域の病院機能：

救急科専門医指定施設、救急科指導医指定施設、三次救急医療施設（救命救急センター）、災害拠点病院、地域メディカルコントロール（MC）協議会中核施設、救急告示医療機関

(2)指導者：救急科指導医2名、救急科専門医8名、

その他の専門診療科専門医師（集中治療専門医6名）

(3)救急車搬送件数：12000/年

(4)救急外来受診者数：24000人/年

(5)研修部門：救命救急センター（救急室、集中治療室、救命救急センター病棟）

(6)研修領域と内容

i. 救急室における救急外来診療（クリティカルケア・重症患者に対する診療含む）

ii. 外科的・整形外科的救急手技・処置

iii. 重症患者に対する救急手技・処置

iv. 集中治療室、救命救急センター病棟における入院診療

v. 地域メディカルコントロール（MC）

vi. 災害医療

(7) 臨床現場を離れた研修活動：

日本救急医学会、日本救急医学会地方会、日本臨床救急医学会、日本集中治療医学会、日本外傷学会、日本中毒学会、日本熱傷学会、日本集団災害医学会など救急医学・救急医療関連医学会の学術集会への1回以上の参加ならびに報告を行う。

できる限り海外の学会でも1回は報告を行う。

参加費ならびに論文投稿費用は概ね支給。

(8) 週間スケジュール

時	月	火	水	木	金	土	日
8:15	救外、入院患者カンファレンス					当番以外は原則休日	
8:30	回診						
	救急外来、病棟対応						
12:00	適宜、昼食						
13:00	救急部・集中治療部カンファレンス						
14:00	症例検討会		抄読会				
	救急外来、病棟対応						
17:00	救外、入院患者カンファレンス・回診						

⑤ 研修プログラムの基本モジュール

研修領域ごとの研修期間は、救急室での救急診療 12～18 ヶ月間、集中治療部門 6～12 ヶ月間、連携施設 12 ヶ月

4. 研修プログラムの施設群

専門研修基幹施設

- ・ 横浜市立みなと赤十字病院救急科

専門研修連携施設

- ・ けいゆう病院（横浜市西区）410床、<http://www.keiyu-hospital.com/>
- ・ 聖隷横浜病院（横浜市保土ヶ谷区）300床、<http://www.seirei.or.jp/yokohama/>
- ・ 菊名記念病院（横浜市港北区）218床、<http://www.kmh.or.jp/>
- ・ 東戸塚記念病院（横浜市戸塚区）292床、<http://www.higashi-totsuka.com/>
- ・ 大森赤十字病院（東京都大田区）344床、<http://omori.jrc.or.jp/>

- ・ 産業医科大学（福岡県北九州市）678 床、<http://www.uoeh-u.ac.jp/hospital.html>
- ・ 防衛医科大学校病院（埼玉県所沢市）800 床、<http://www.ndmc.ac.jp/hospital/>
- ・ 佐久医療センター（長野県佐久市）450 床、<http://www.sakuhp.or.jp/ja/center/index.html>

問い合わせ先：

〒231—8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-1 2-1

横浜市立みなと赤十字病院臨床教育研修センター

電話：045-628-6100（総務課直通）、045-628-6100（代表）

E-mail：[kenshu@yokohama.jrc.or.jp](mailto:kenshu@yokohama.jrc.or.jp)

募集要項などの最新情報は随時 HP に掲載しますので、ご確認ください。

横浜市立みなと赤十字病院 臨床教育研修センター

<http://www.yokohama.jrc.or.jp/rinsho/index.html>

横浜市立みなと赤十字病院 救命救急センター

[http://www.yokohama.jrc.or.jp/yokohama\\_er/](http://www.yokohama.jrc.or.jp/yokohama_er/)